

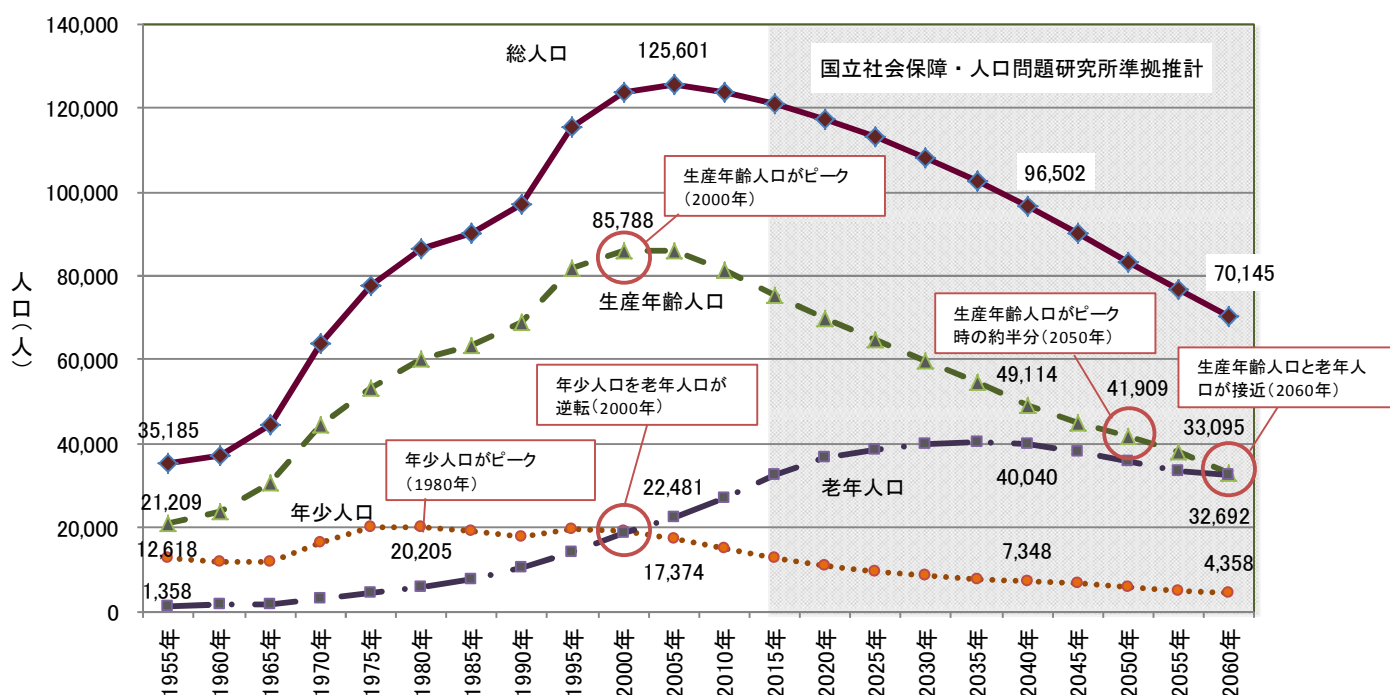
江別市人口ビジョン（案） 【概要】

江別市人口ビジョンは江別市における人口の現状を分析し、
今後、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです

I 人口の現状分析

1 総人口の推移について

図表 1 江別市の年齢 3 区分人口の推移（1955 年（昭和 30 年）～2060 年（平成 72 年））



（出典）2010 年までは国勢調査、2015 年以降は「日本の地域別将来推計人口（平成 25（2013）年 3 月推計）」

（国立社会保障・人口問題研究所）に準拠した推計

※年齢 3 区分人口：年少者人口は 0～14 歳、生産年齢人口は 15～64 歳、老年人口は 65 歳以上（高齢者）の人口

江別市の総人口は、国勢調査ベースで 2005 年（平成 17 年）の 125,601 人をピークに減少傾向に入っています。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040 年（平成 52 年）時点で 96,502 人となり、ピーク時の約 76.8%まで減少すると推計されています。

2 高齢化率の推移について

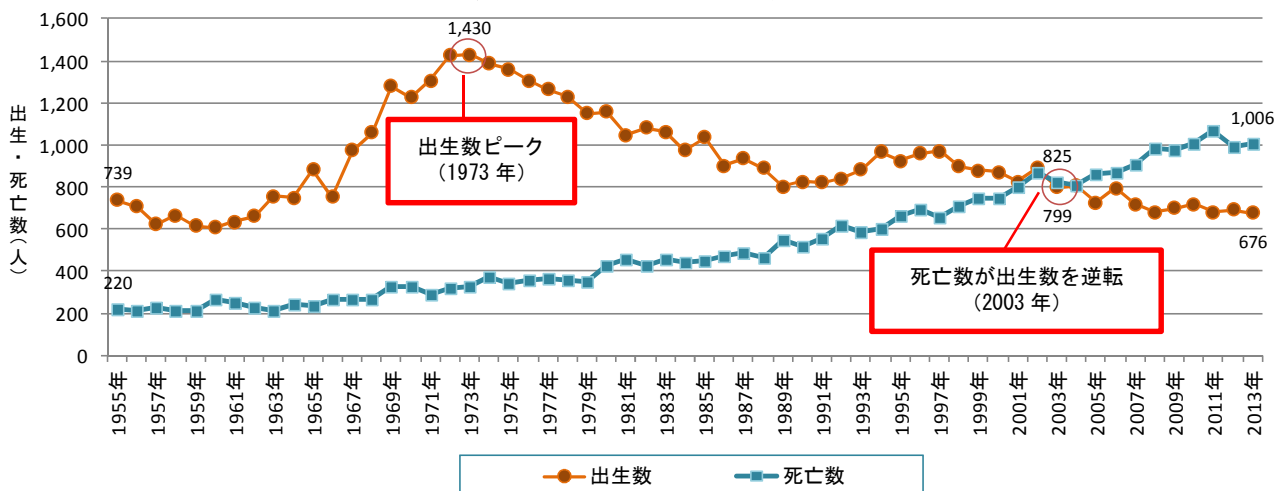
図表2 他の自治体と比較した高齢化率の変化

【2010年(国勢調査)】		【2040年(推計)】		
自治体名	高齢化率	自治体名	高齢化率	伸び率
栗山町	32.7%	栗山町	47.3%	44.6%
岩見沢市	27.8%	北広島市	44.0%	95.9%
北見市	25.4%	北見市	43.5%	71.7%
北海道	24.7%	岩見沢市	42.9%	54.6%
石狩市	23.1%	江別市	41.5%	90.1%
北広島市	22.4%	北海道	40.7%	65.2%
江別市	21.8%	札幌市	39.9%	95.1%
恵庭市	20.8%	石狩市	39.7%	71.5%
札幌市	20.5%	恵庭市	35.8%	72.3%
千歳市	17.4%	千歳市	31.5%	81.2%

江別市の高齢化率は2010年（平成22年）では、全道平均（24.7%）よりも低い高齢化率（21.8%）を示しています。しかし、2040年（平成52年）になると高齢化率が（41.5%）に上昇（伸び率90.1%）し、北海道（40.7%）を上回る見込みです。比較対象とした自治体で同様に高齢化率の伸び率90%を超える自治体は、札幌市、北広島市です。

3 人口の自然増減（出生死亡）について

図表3 江別市の出生・死亡数の推移



(出典) 江別市統計書

江別市の人口の自然増減については、出生数が1973年（昭和48年）にピークを迎え、以降は減少傾向で推移しています。2002年（平成14年）までは出生が死亡を上回る「自然増」の状況だったが、それ以降は「自然減」に転じています。

4 人口の社会増減（転入・転入）

図表4 江別市の転入・転出数の推移



江別市の人口の社会増減について、転入数に関しては、大麻団地の造成に関係するもの（1960年代後半～1970年代前半）と、大規模土地区画整理事業に関係するもの（1988年～1990年代後半）の2つの山があり、転入のピークは1994年（平成6年）となっています。また、2008年（平成20年）からは転出入の均衡に近い水準ではあるものの、転出超過となる状況が続いています。

近隣市町村との人口移動の状況 (2013年（平成25年）)

近隣市町村との人口移動の状況を見ると、札幌市からの転入者が1,689人、札幌市への転出が2,202人と、最も多くなっています。次いで、岩見沢市からの転入が203名、岩見沢市への転出が127名となっています。

転入・転出者ともに多い札幌市の状況を年齢別にみると、転入者では25～29歳、30～34歳の割合が高く、転出者では20～24歳、25～29歳の割合が高いことが分かります。

図表5-3 近隣市町村との人口移動の状況

	転入	転出	社会増減 (転入-転出)
札幌市	1,689	2,202	-513
岩見沢市	203	127	76
千歳市	59	56	3
恵庭市	26	54	-28
北広島市	72	65	7
石狩市	47	31	16
当別町	54	12	42
新篠津村	20	10	10
南幌町	65	27	38
由仁町	6	5	1
長沼町	19	9	10
栗山町	19	14	5
月形町	4	4	0

図表5-1 江別市全体の転入者・転出者の総数 (人)

	転入	転出	差引
総数	4,643	4,906	△263

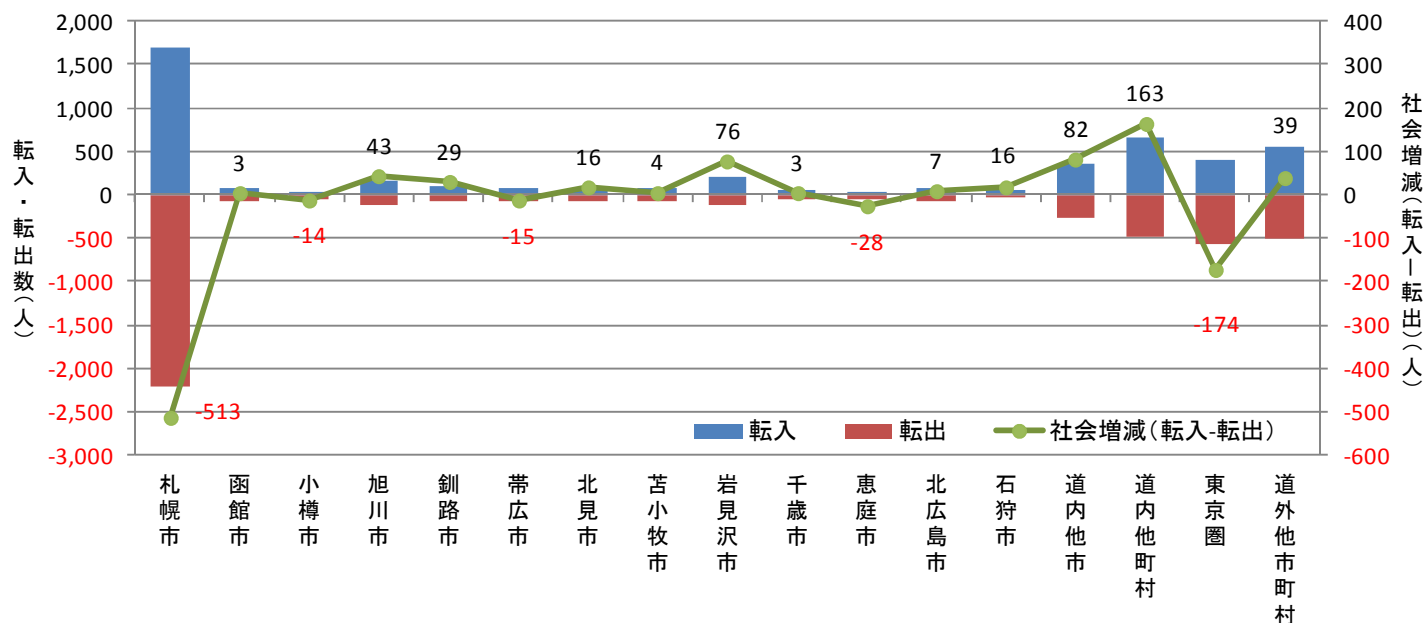
図表5-2 札幌市からの転入者・札幌市への転出者 (人)

	転入		転出	
総数	1,689	100.0%	2,202	100.0%
0～4歳	179	10.6%	80	3.6%
5～9歳	66	3.9%	46	2.1%
10～14歳	17	1.0%	25	1.1%
15～19歳	47	2.8%	94	4.3%
20～24歳	197	11.7%	470	21.3%
25～29歳	288	17.1%	430	19.5%
30～34歳	272	16.1%	258	11.7%
35～39歳	185	11.0%	185	8.4%
40～44歳	127	7.5%	124	5.6%
45～49歳	67	4.0%	89	4.0%
50～54歳	44	2.6%	63	2.9%
55～59歳	47	2.8%	74	3.4%
60～64歳	42	2.5%	69	3.1%
65～69歳	28	1.7%	41	1.9%
70～74歳	17	1.0%	25	1.1%
75～79歳	13	0.8%	34	1.5%
80～84歳	23	1.4%	52	2.4%
85～89歳	18	1.1%	26	1.2%
90歳以上	12	0.7%	17	0.8%

（出典）住民基本台帳人口移動報告

5 地域別の人口移動（転入-転出）の状況

図表6 江別市の地域別の人口移動の状況（2013年（平成25年））



※東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

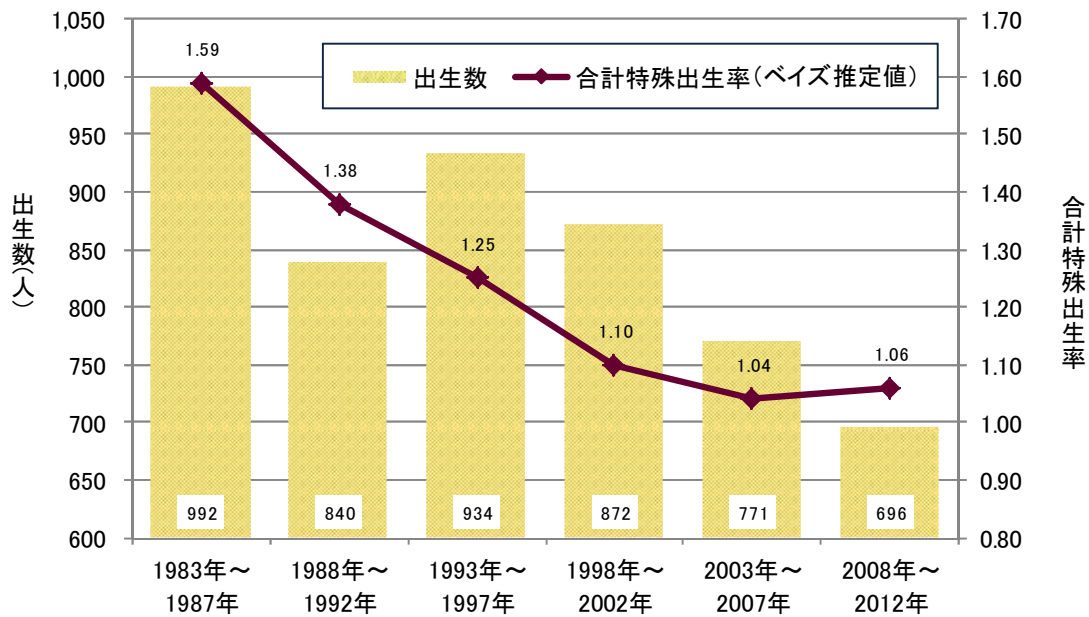
※国外からの転入、国外への転出は含まない

（出典）住民基本台帳移動報告（平成25年）

江別市は、札幌市への転出超過が顕著となっており、次いで転出超過となっているのは東京圏です。その他の地域については、おおむね転入超過の状況です。

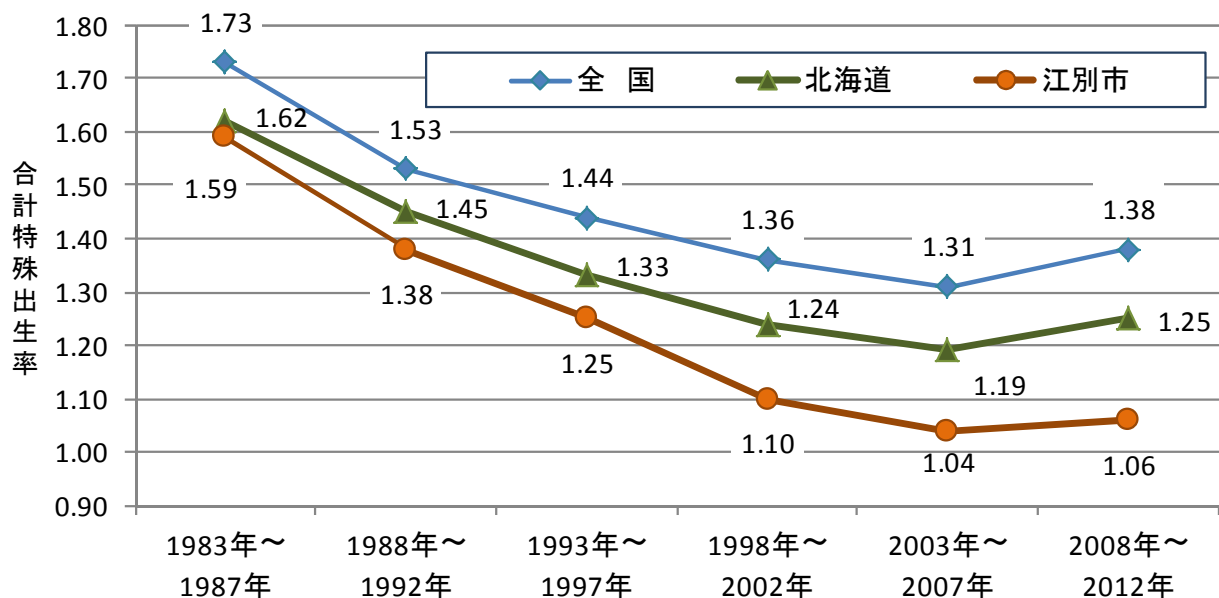
6 合計特殊出生率と出生数の推移について

図表7 江別市の合計特殊出生率と出生数の推移



江別市の合計特殊出生率について、5年ごとの平均により推移を見ると、1983年～1987年の1.59から低下が続き、2003年～2007年の1.04と過去最低値となり、2008年～2012年は1.06に上昇していますが、全国の1.38、北海道の1.25と比べて低い値となっています。また、出生率は上昇しているものの、出生数は2003年～2007年の771人から696人へと減少しています。

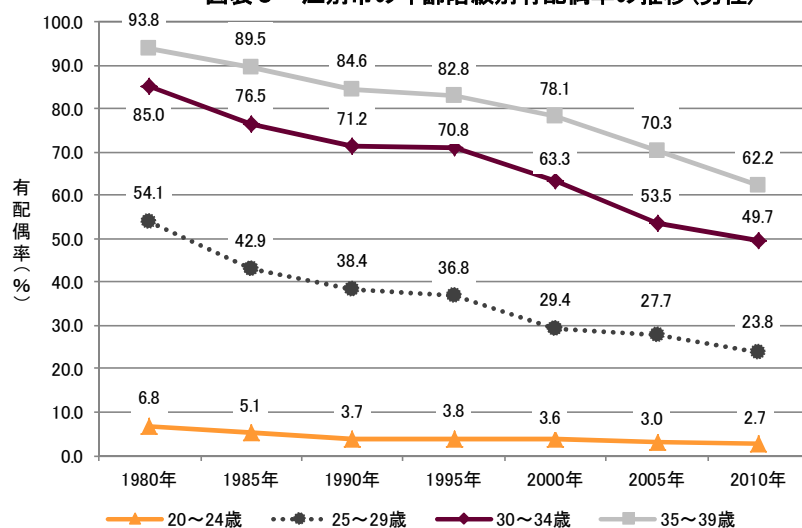
図表8 合計特殊出生率(ベイズ推定値)の比較(全国、北海道、江別市)



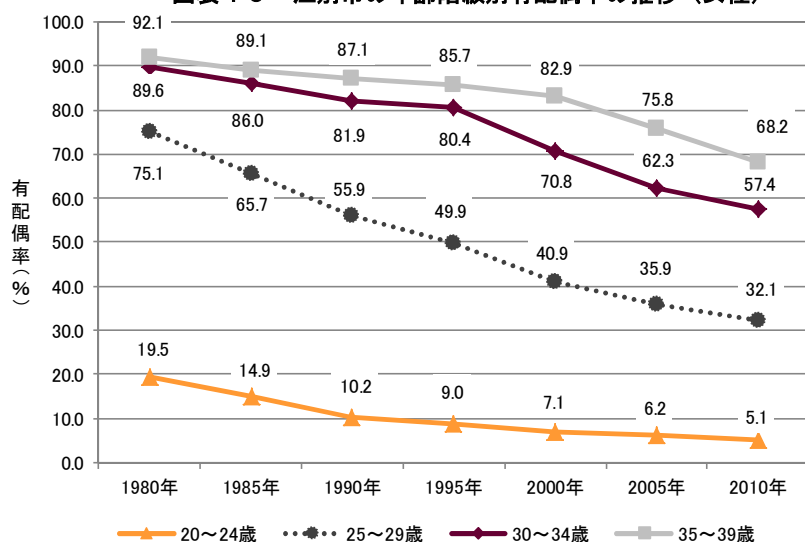
(出典) 人口動態保健所・市区町村別統計より作成

7 有配偶率・有配偶出生率の推移

図表 9 江別市の年齢階級別有配偶率の推移(男性)



図表 10 江別市の年齢階級別有配偶率の推移(女性)



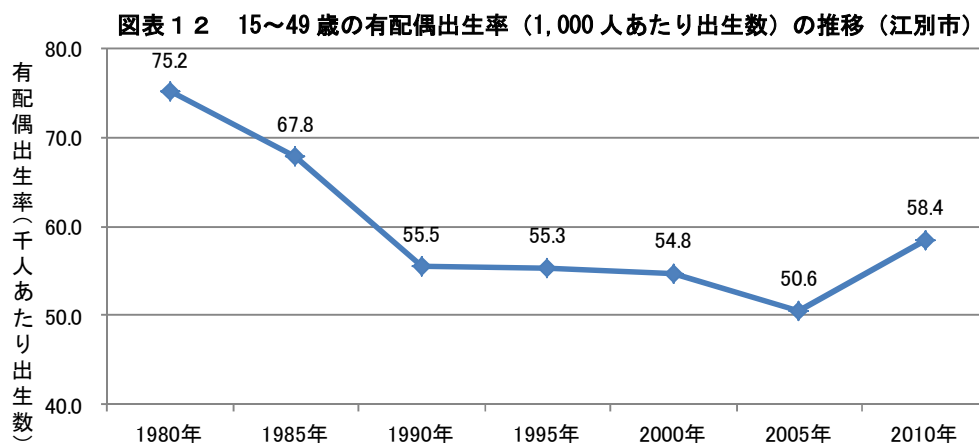
年齢階級別の有配偶率の推移をみると、1980年（昭和55年）と比べて男性も女性も各年代ともに大幅に低下しており、これは全国、北海道ともに同じ傾向にあります。また、減少幅が大きいのは、男性で30～34歳、女性で25～29歳です。

図表 11 年齢階級別の有配偶率の比較(全国、北海道、江別市)

【男性】		全体	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
全 国	1980年	67.6	0.3	8.1	44.1	77.0	89.4
	2010年	59.9	0.3	5.5	26.2	49.0	59.4
北海道	1980年	69.7	0.5	11.9	53.4	81.8	91.1
	2010年	61.5	0.3	6.4	28.6	50.0	59.4
江別市	1980年	65.9	0.4	6.8	54.1	85.0	93.8
	2010年	60.2	0.3	2.7	23.8	49.7	62.2

【女性】		全体	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
全 国	1980年	64.0	0.9	21.9	74.5	88.0	90.2
	2010年	55.9	0.6	9.3	36.2	59.7	68.6
北海道	1980年	65.0	1.4	25.4	73.2	86.5	89.2
	2010年	54.2	0.6	10.3	36.4	57.1	63.8
江別市	1980年	66.1	1.0	19.5	75.1	89.6	92.1
	2010年	56.8	0.3	5.1	32.1	57.4	68.2

(出典) 国勢調査より作成



（出典）国勢調査、人口動態保健所・市区町村別統計より作成

15～49 歳の有配偶者に対しての出生数をみたところ（有配偶出生率※）、1980 年（昭和 55 年）の 75.2 から 1990 年（平成 2 年）には 55.5 と大幅に低下しましたが、1990 年代は微減で推移し 2005 年（平成 17 年）に 50.6 で過去最低値となったあと、2010 年（平成 22 年）には若干回復し 58.4 となっています。

※有配偶出生率：出生数／各年の 15 歳～49 歳の女性の有配偶者により算出

図表 1 3 5 歳階級の有配偶出生率（1,000 人あたり出生数）

	江別市	北海道	札幌市	全 国
全体(15～49歳)	58.4	74.7	73.9	81.5
15～19歳	1000.0	747.7	619.9	820.7
20～24歳	338.4	378.8	345.0	399.2
25～29歳	235.0	226.7	221.2	248.1
30～34歳	153.5	143.6	147.3	161.8
35～39歳	50.6	60.0	65.4	68.0

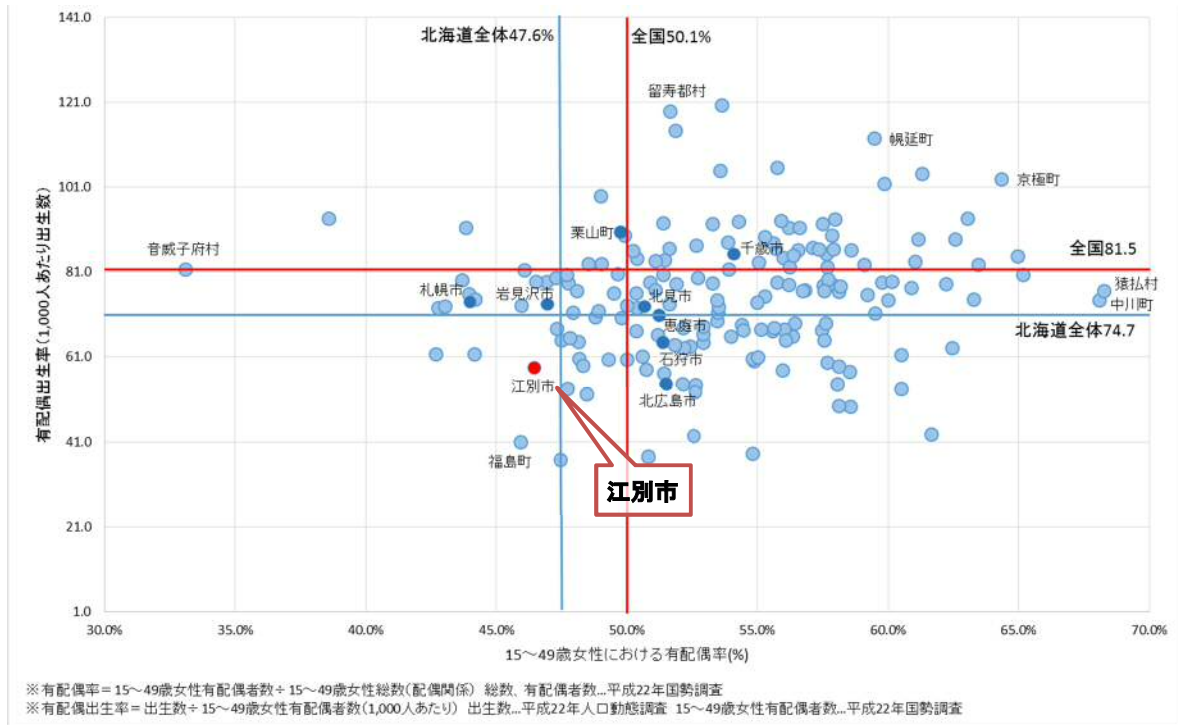
	岩見沢市	千歳市	北見市	栗山町	恵庭市	石狩市	北広島市
全体(15～49歳)	73.4	85.2	72.9	90.3	70.8	64.5	54.6
15～19歳	1500.0	764.7	466.7	1000.0	1076.9	1166.7	833.3
20～24歳	428.6	393.8	402.3	370.4	449.4	374.0	383.8
25～29歳	223.8	236.5	216.0	305.3	206.1	210.6	209.5
30～34歳	141.2	140.0	131.4	171.0	120.3	110.5	118.9
35～39歳	54.9	55.2	55.0	91.5	55.0	60.8	55.6

（出典）国勢調査、人口動態保健所・市区町村別統計より作成

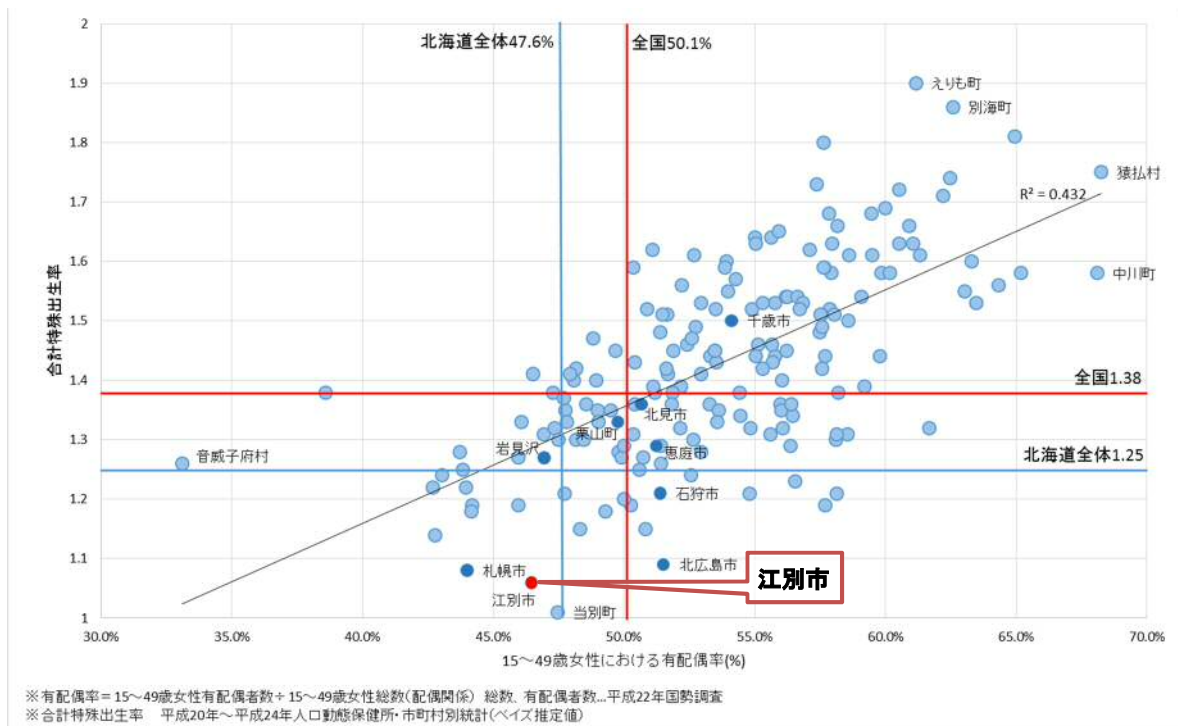
5 歳階級別の有配偶出生率について、他の地方公共団体と比較すると、特に 20～24 歳、35～39 歳で下回っており、この年齢層では結婚していても子どもを産まない傾向が見られます。特に 35～39 歳は有配偶者率が高く、結果、有配偶者数も多くなっており、この層の低さが全体の数値を押し下げているものと推察されます。

8 有配偶率と合計特殊出生率、有配偶出生率について

図表 1 4 北海道内の自治体における有配偶率・有配偶出生率散布図

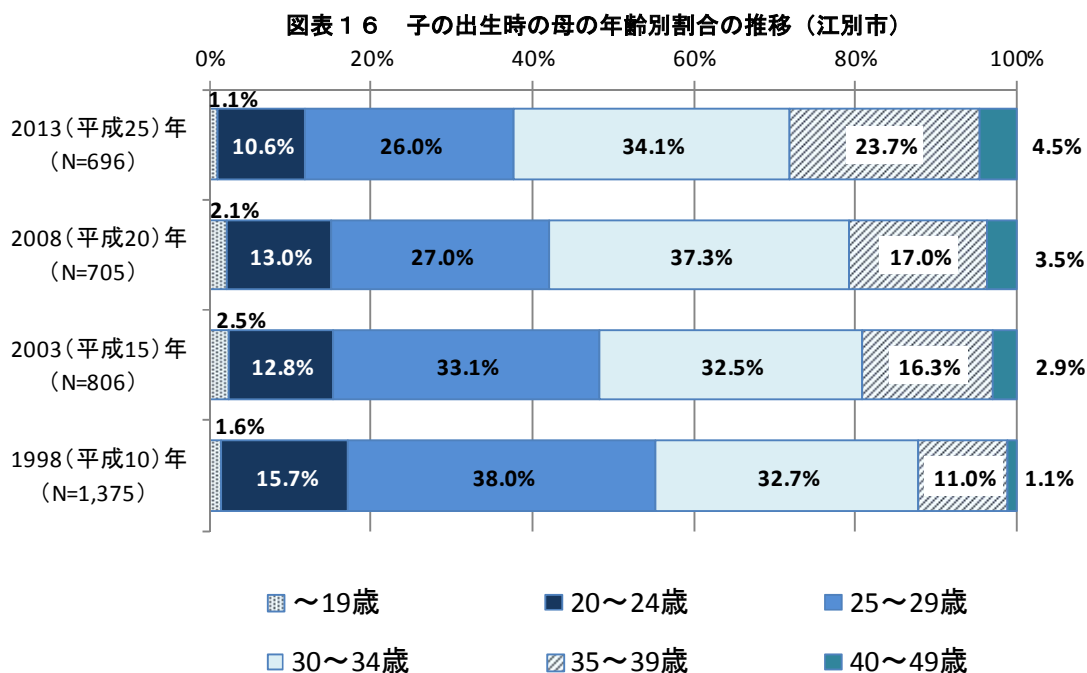


図表 1 5 北海道内の自治体における合計特殊出生率・有配偶率散布図



有配偶率、有配偶出生率、合計特殊出生率の関連について、【図表 1 4】によると、江別市は有配偶率、有配偶出生率が全道の自治体と比べて低い値となっています。【図表 1 5】では有配偶率と合計特殊出生率の相関がみられ、江別市では相対的に結婚する女性が少なく、また夫婦でもうける子どもの数が少ないことが読み取れます。

9 子の出生時の母の年齢別割合



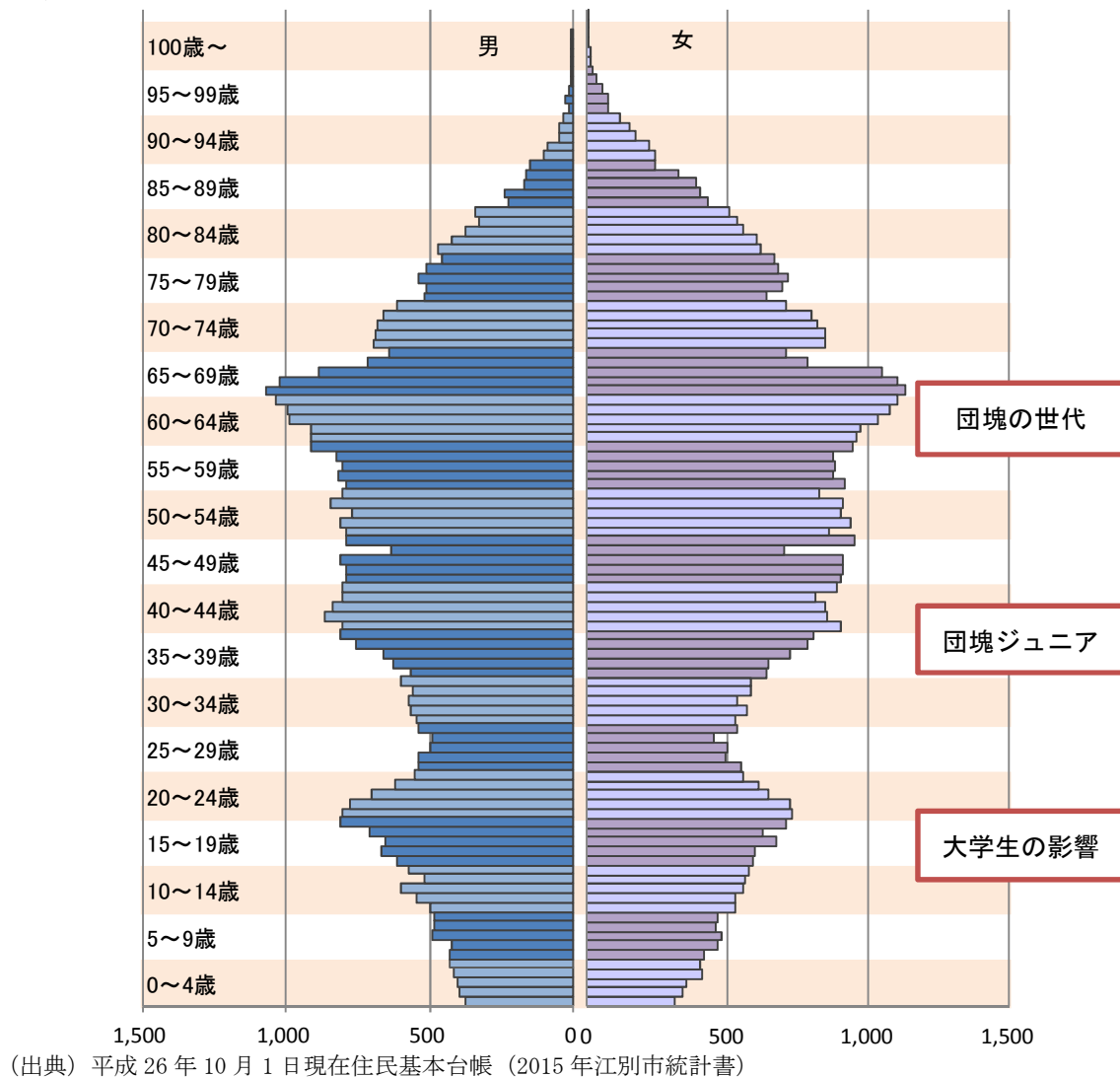
（出典）人口動態統計より作成

子の出生時の母の年齢をみると、1998年（平成10年）では、25～29歳の母親の割合が38.0%と最も高くなっていますが、2013年（平成25年）では、30～34歳が34.1%と最も高くなっています【図表16】。

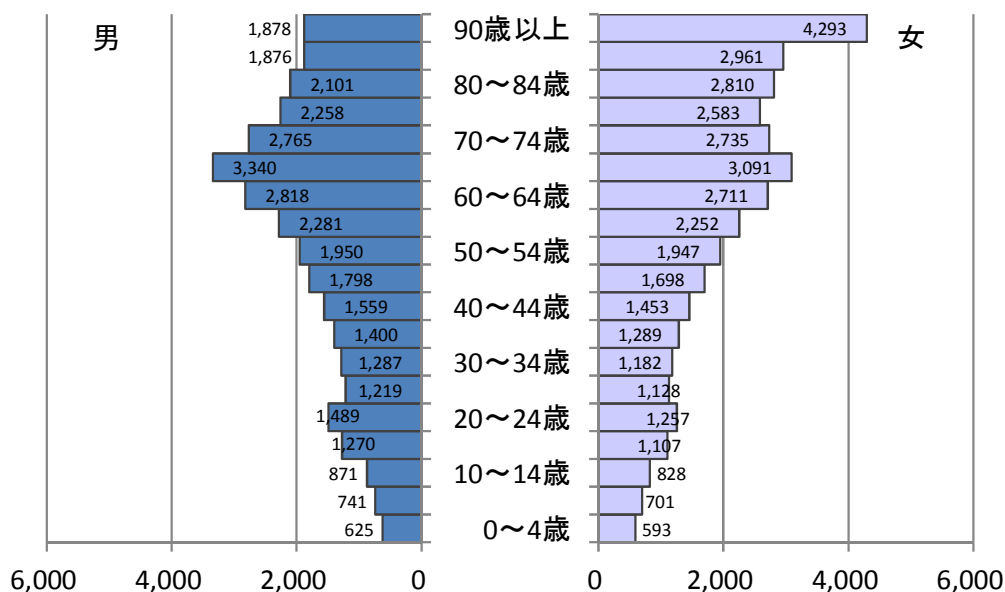
また、35～39歳の母親の割合は、1998年（平成10年）には11.0%であったものが、2013年（平成25年）には23.7%と、年々割合が高くなり、晩産化の傾向が読み取れます。

10 人口構造の変化

図表17 江別市の2014年（平成26年）の人口ピラミッド



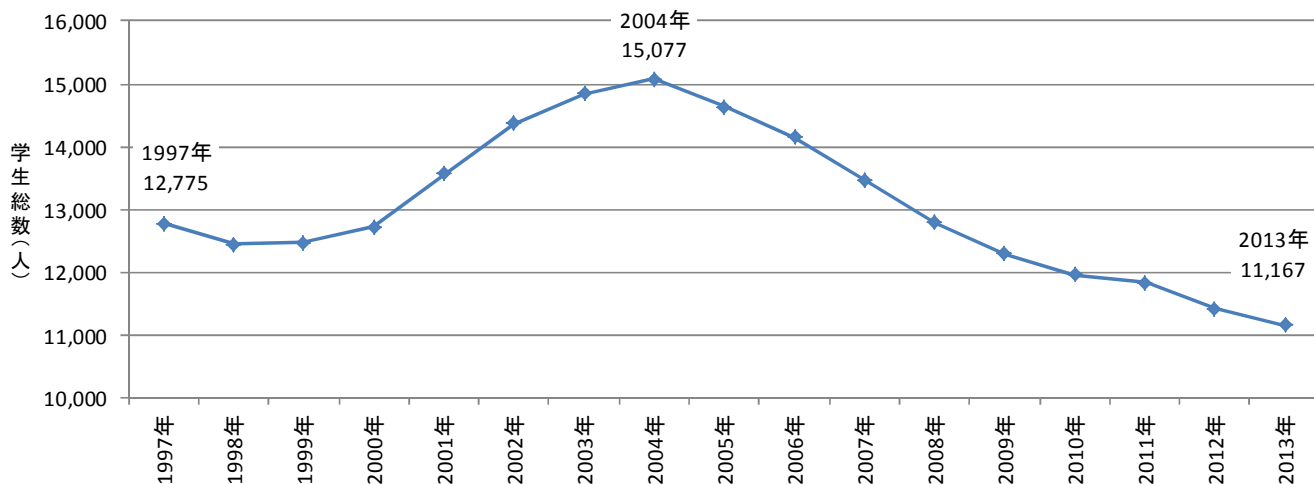
図表18 江別市の2060年（平成72年）の推計人口ピラミッド



（出典）「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）に基づき作成

1 1 大学学生数の推移

図表 1 9 江別市内の 4 大学の学生数の推移



(出典) 学校基本調査

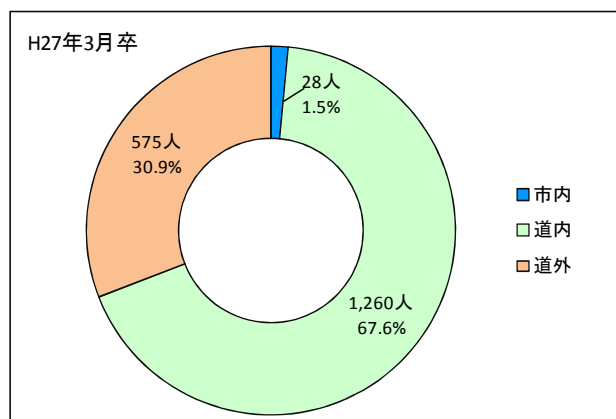
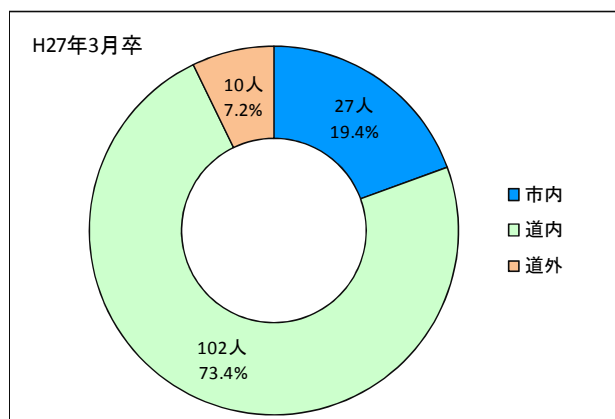
江別市内 4 大学の学学生数について【図表 1 9】によると、2004 年(平成 16 年)のピーク時には 15,077 人の学生が在籍していましたが、2013 年(平成 25 年)には、11,167 人と、ピーク時から約 4,000 人減少しています。

1 2 市内学生の地域別就職状況

図表 2 0 江別市内の高校、大学の卒業生の地域別就職状況

高等学校 地域別就職状況

大学・短期大学 地域別就職状況



卒業年月	市内	道内	道外	計	市内比率
H25.3	16人	106人	20人	142人	11.3%
H26.3	17人	115人	12人	144人	11.8%
H27.3	27人	102人	10人	139人	19.4%
計	60人	323人	42人	425人	14.1%

卒業年月	市内	道内	道外	計	市内比率
H25.3	34人	1,081人	526人	1,641人	2.1%
H26.3	28人	1,129人	557人	1,714人	1.6%
H27.3	28人	1,260人	575人	1,863人	1.5%
計	90人	3,470人	1,658人	5,218人	1.7%

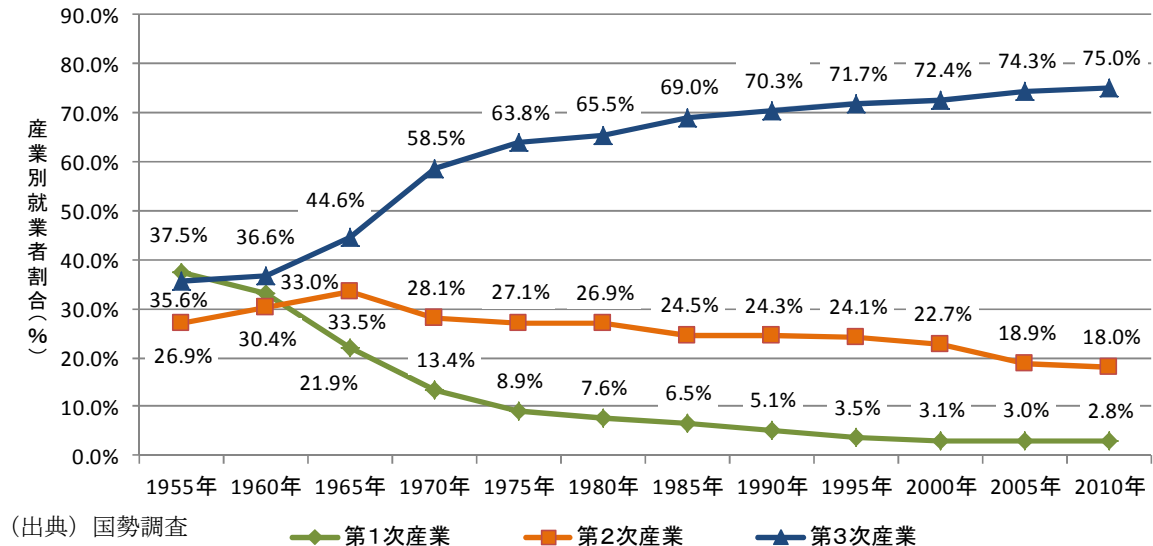
(出典) 江別市就職状況調査

【図表 2 0】によると、市内の高校を卒業して市内の企業等に就職する割合は、平成 24~26 年度平均で 14.1%です。また、市内の大学を卒業して市内の企業等に就職する割合は、平成 24~26 年度平均で 1.7%です。

Ⅱ 産業について

1 雇用や就労

図表 2 1 江別市の産業別就業者割合の推移



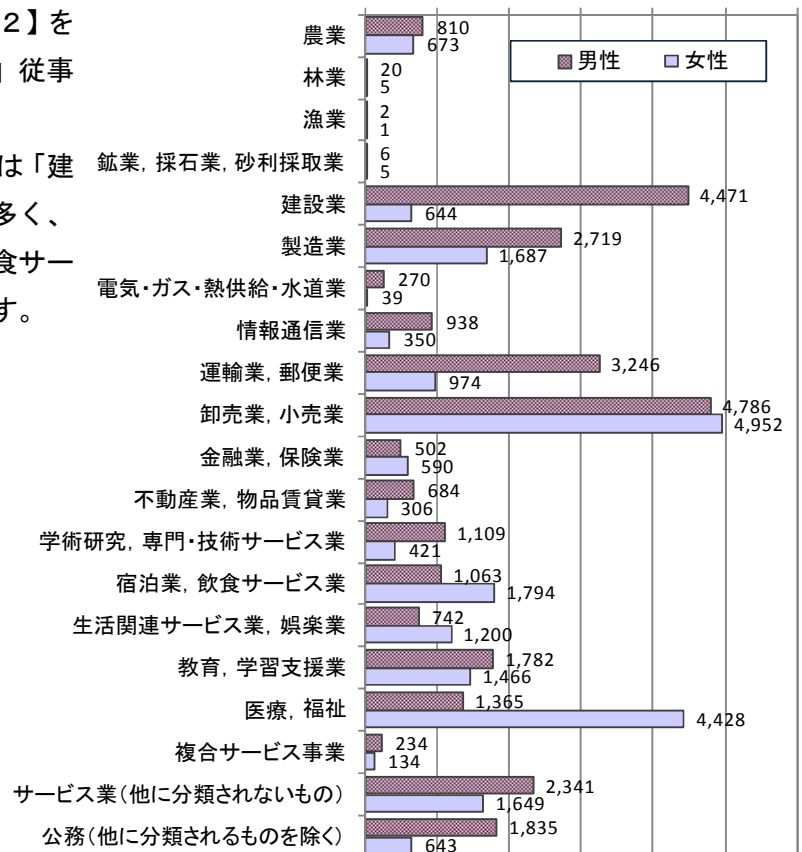
産業別就業者割合の推移について、【図表 2 1】をみると、1955 年（昭和 30 年）には第 1 次産業の割合が最も高く 37.5%でしたが、徐々に割合が低下して、2010 年（平成 22 年）には 2.8%となりました。一方で第 3 次産業の割合は年々高まり、2010 年（平成 22 年）には 75.0%にまで高まっています。

図表 2 2 江別市の男女別産業人口

0 1,000 2,000 3,000 4,000 5,000 6,000 (人)

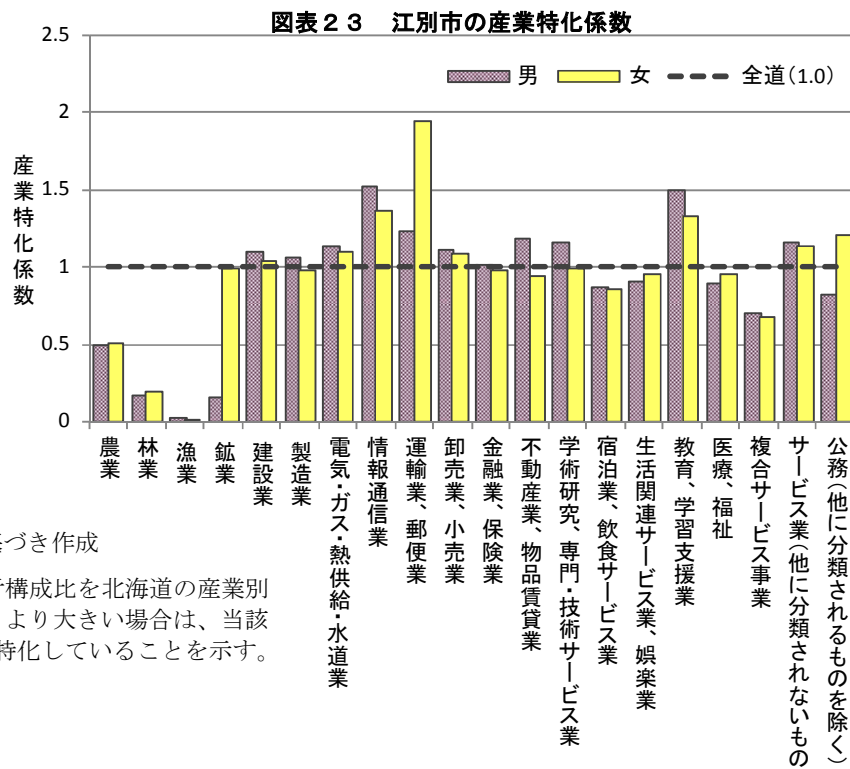
男女別の産業人口について、【図表 2 2】をみると、男女ともに「卸売業、小売業」従事者が最も多くなっています。

「卸売業、小売業」に次いで、男性では「建設業」「運輸業、郵便業」「製造業」が多く、女性では「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」、「製造業」が多くなっています。



産業特化係数について、【図表 2 3】をみると、「情報通信業」「運輸業、郵便業」「教育、学習支援業」などで、男女ともに特化係数が高くなっています。

「教育、学習支援業」の特化係数が高いことについては、江別市内に 4 つの大学が集積していることが関係しているものと推察されます。



(出典) 国勢調査(平成 22 年)に基づき作成

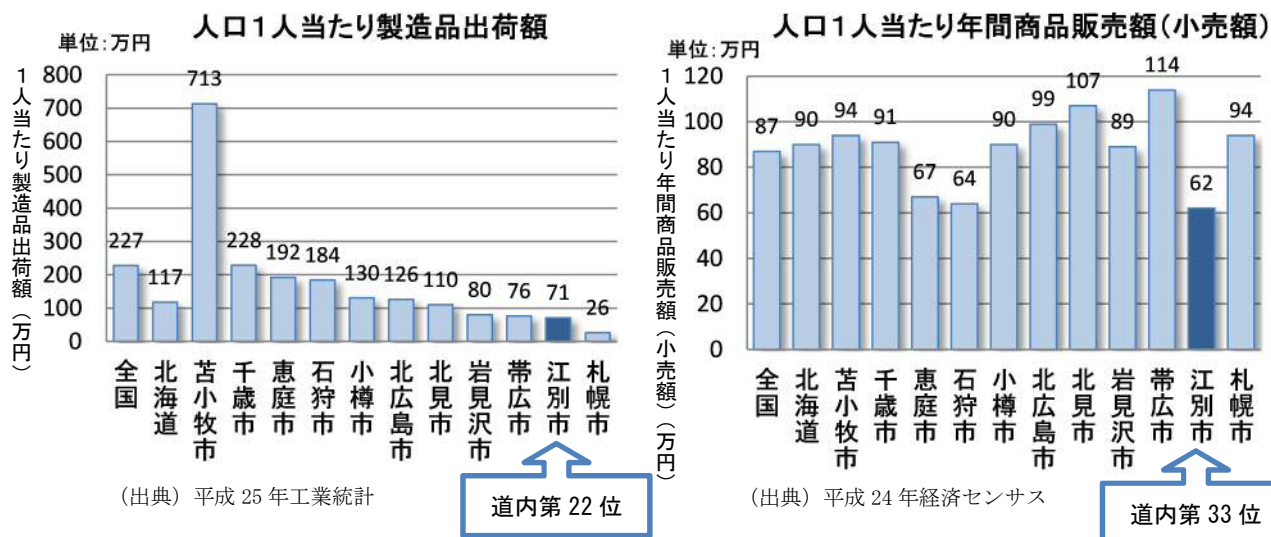
※特化係数：江別市の産業別従業者構成比を北海道の産業別従業者構成比で割った値。値が 1 より大きい場合は、当該産業が北海道平均と比べて、より特化していることを示す。

2 産業規模・市場規模

江別市の人口 1 人当たりの製造品出荷額は、近隣や人口規模が同程度の都市と比較すると低く、道内 35 市中、第 22 位の金額です。

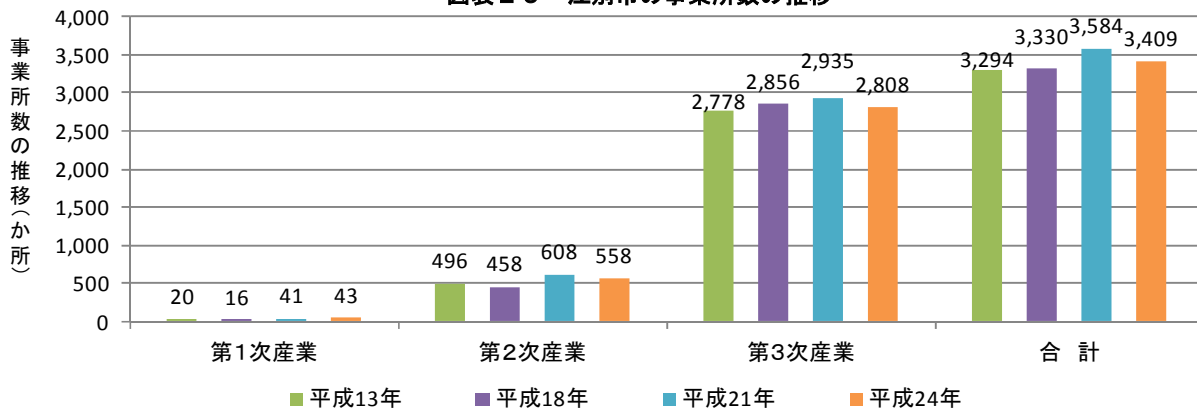
江別市の人口 1 人当たりの年間消費販売(小売額)は、近隣や人口規模が同程度の都市と比較すると低く、道内 35 市中、第 33 位の金額です。

図表 2 4 産業規模・市場規模

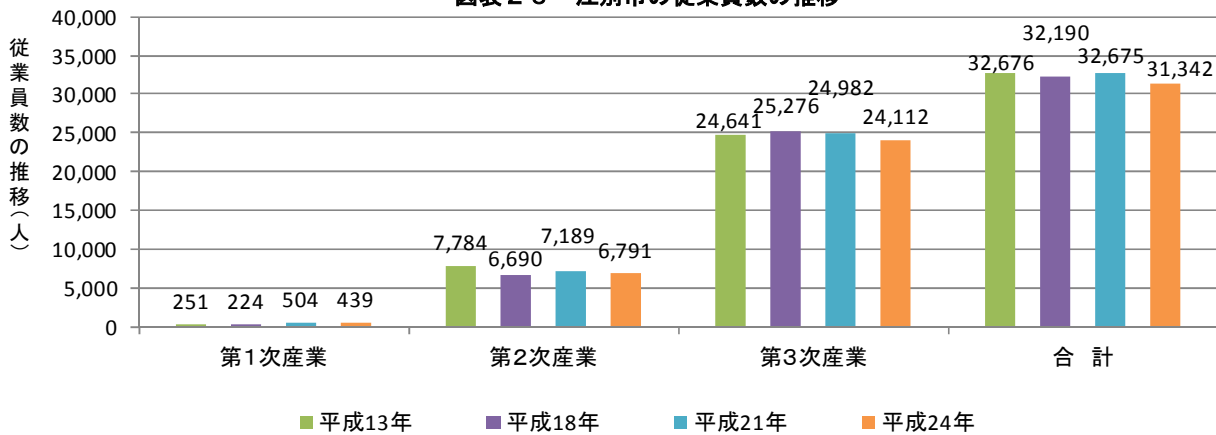


3 事業所数・従業員数の推移

図表 2 5 江別市の事業所数の推移



図表 2 6 江別市の従業員数の推移



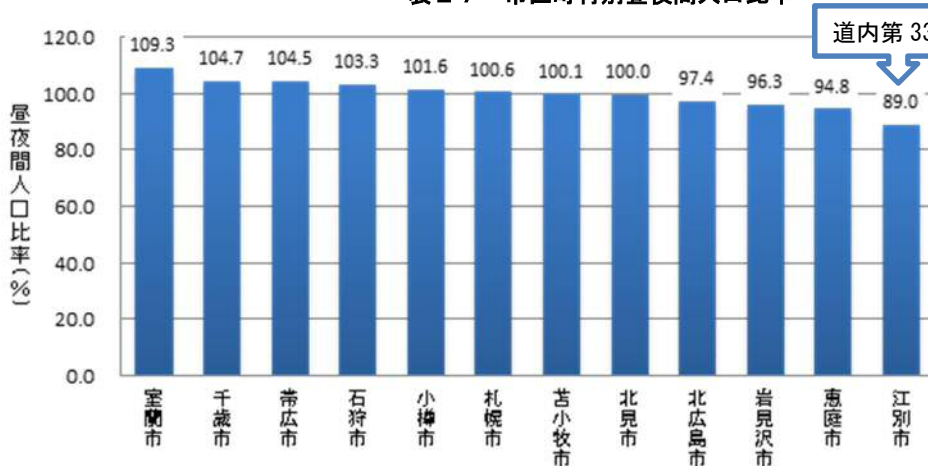
(出典) 平成 18 年以前：事業所・企業統計調査、平成 21 年以降：経済センサス調査（公務サービスを除く）

経済センサスは平成 21 年に創設した調査で、平成 18 年までの事業所・企業統計調査と調査方法が異なるため単純比較はできません

事業所数は、平成 21 年から 175 事業所の減少、従業員数は、平成 21 年から 1,333 人の減少となっています

4 昼夜間人口比率

表 2 7 市区町村別昼夜間人口比率



道内第 33 位

江別市は、札幌市への通勤・通学者が多く、昼夜間人口比率は 89.0%（平成 22 年（従業員による人口（昼間人口）÷常住地による人口（夜間人口））で、道内 35 市中 33 位となっています

Ⅲ 調査からみる江別市民の意識

1 実施した調査の概要

調査の種類	概要
人口減少にかかるアンケート調査（市民アンケート）	・ 16～49 歳の市民 3,000 人を対象 ・ 発送数 3,000 件に対し回収数 880 件（回収率 29.3%）
江別市内の事業所における人材確保に関するアンケート調査（企業アンケート）	・ 江別市内に本社または事業所がある企業 1,000 社を対象 ・ 発送数 1,000 件に対し回収数 225 件（回収率 22.5%）
大学生および子育て世代市民との意見交換会	・ 江別市内の 4 大学の大学生（酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学、参加者数 23 名） ・ 江別市内で子育てをしている市民（乳幼児、小中学生の保護者、参加者数 17 名）

2 人口減少にかかるアンケート調査結果のポイント

【配偶者のいる女性】

配偶者のいる女性では、年収が高くなるほど、今いる子どもの数が増える傾向がみられました。【図表 2 8】 また、「予定子ども数」が、「理想子ども数」より少ない理由として、「子育てにお金がかかりすぎるから」と回答した方の割合が高くなっています。

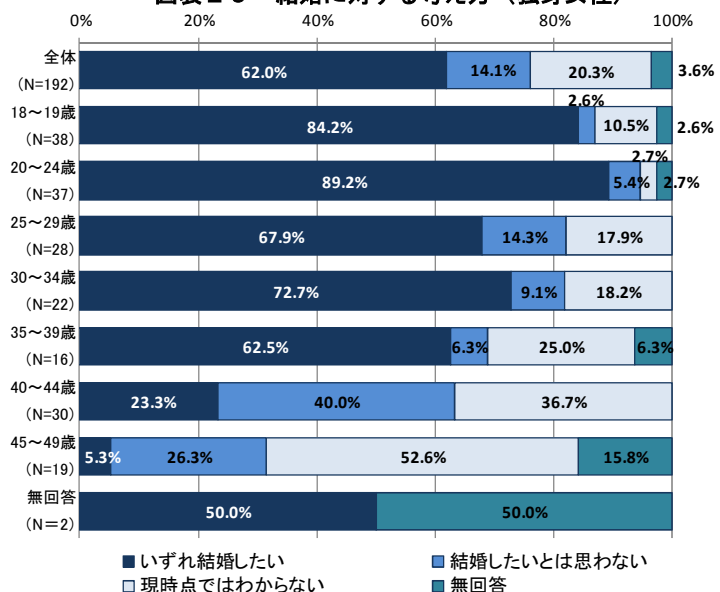
図表 2 8 配偶者のいる女性の子ども数（平均）

配偶者の年収	今いる子供の数	予定子ども数	理想子ども数
0～300万円台	1.43 (N=89)	1.87 (N=86)	2.30 (N=89)
400～600万円台	1.69 (N=162)	1.94 (N=156)	2.51 (N=158)
700万円台以上	1.98 (N=56)	2.15 (N=53)	2.58 (N=55)
有効回答数全体 (年収無回答者を含む)	1.65 (N=320)	1.94 (N=308)	2.46 (N=313)
全 国	1.71	2.07	2.42

【独身の女性（離別・死別を含む）】

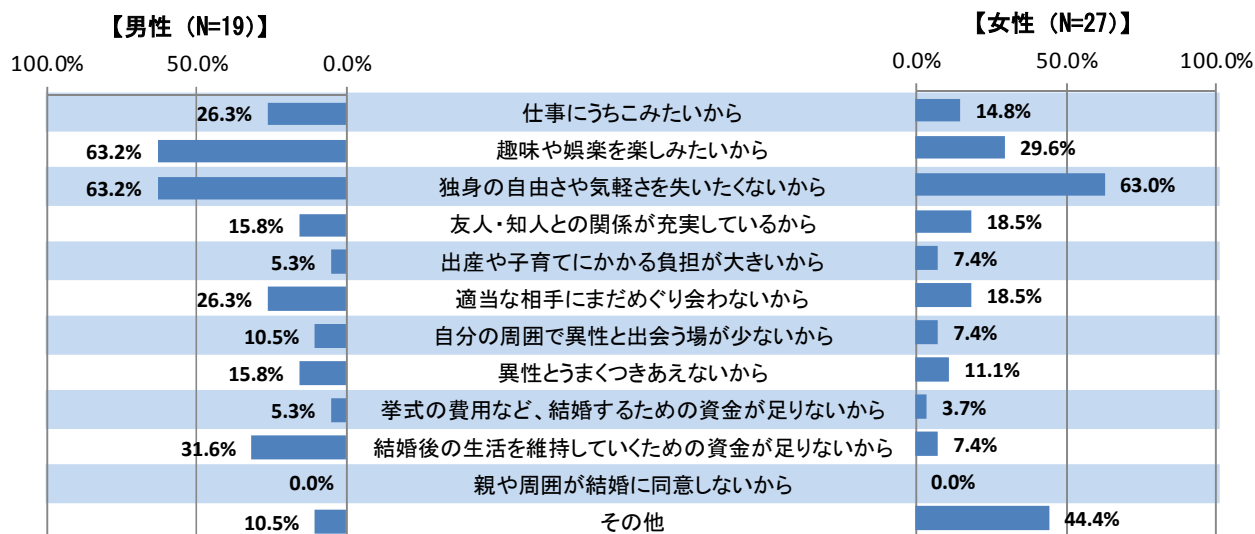
独身の女性では、若い女性ほど「いずれ結婚したい」と考える割合が高くなっています。【図表 2 9】 また、若い女性ほど、将来希望する子どもの数（希望子ども数）も多いことがわかりました。

図表 2 9 結婚に対する考え方（独身女性）



【結婚したいと思わない理由】

図表 3 0 結婚したいと思わない理由（男女別、複数回答）

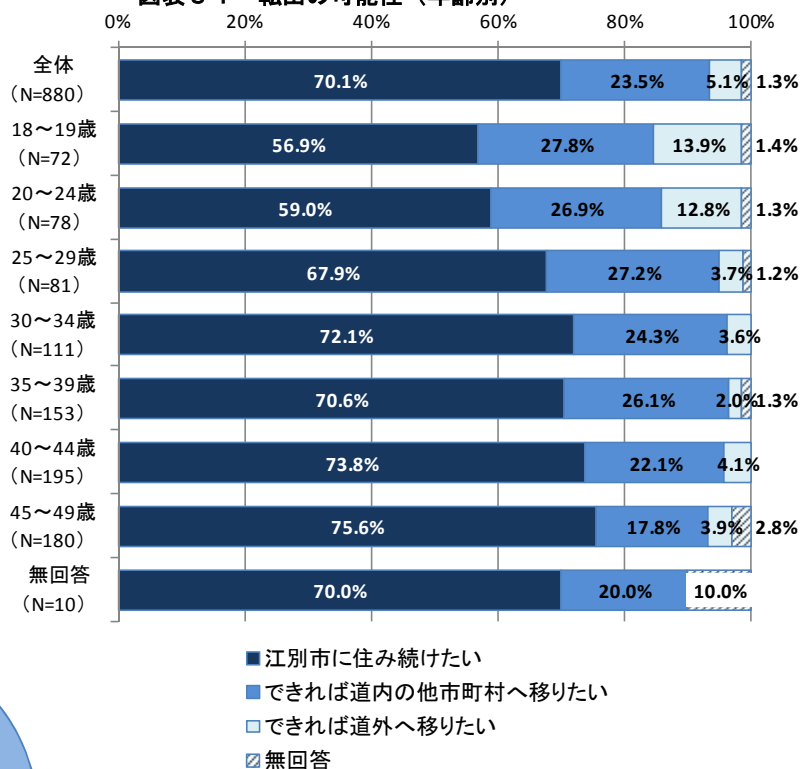


結婚したいと思わない理由について【図表 3 0】をみると、男性では女性と比較して「結婚後の生活を維持していくための資金が足りないから」の割合が高くなっています。

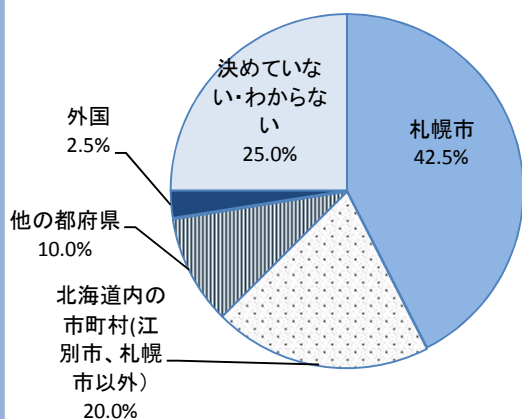
【引っ越し・移動について】

江別市からの転出の可能性について【図表 3 1】、年齢が若い層で「できれば道内の他市町村へ移りたい」「できれば道外へ移りたい」との回答割合が高くなっています。

図表 3 1 転出の可能性（年齢別）



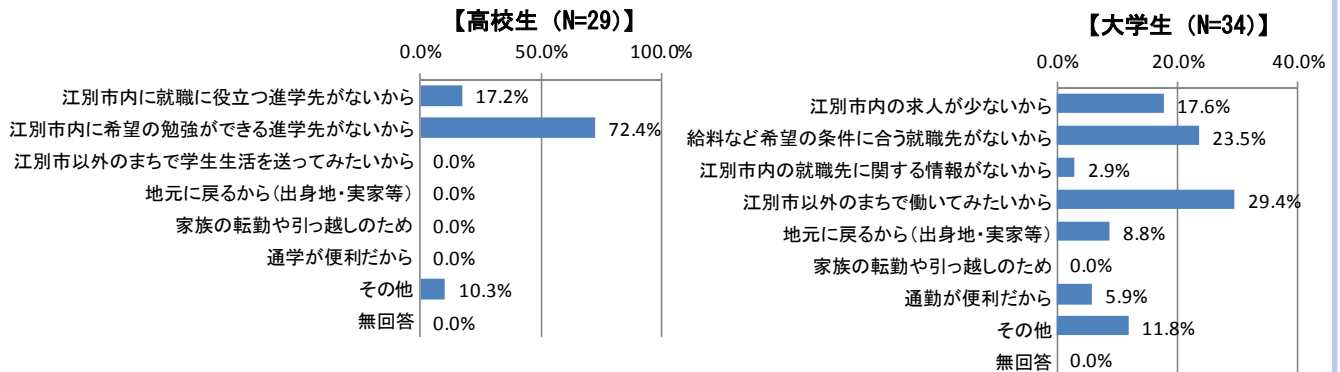
図表 3 2 転出を予定している地域（転出を考えている人 N=80）



転出を考えている地域については【図表 3 2】、札幌市の割合が高くなっています。

【高校生・大学生】

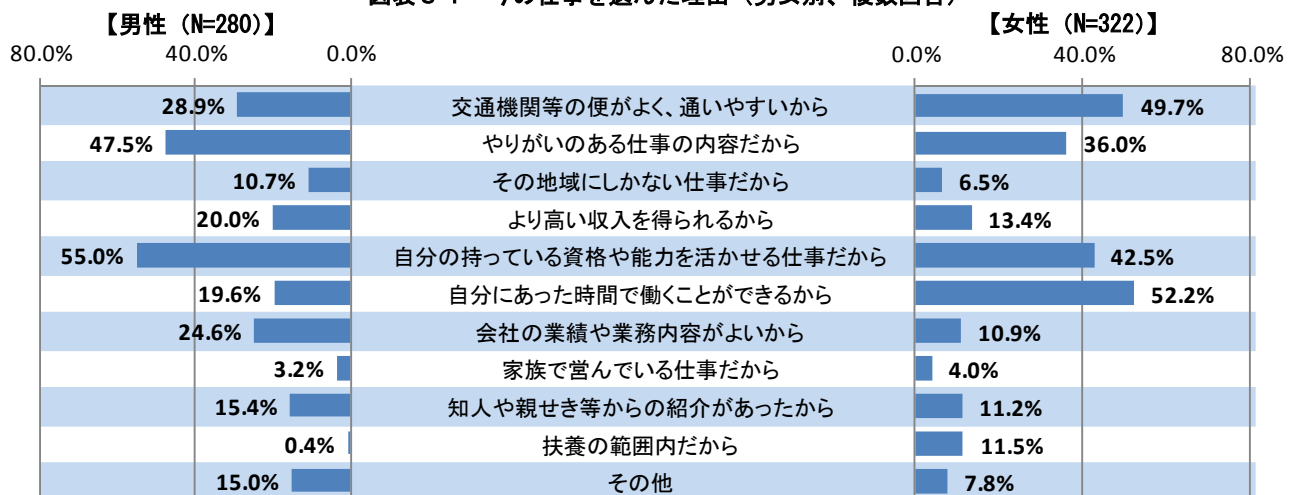
図表 3 3 江別市以外の地域に進学する理由



高校生や大学生が、江別市内に進学・就職しない理由としては、「希望の勉強ができる進学先がないから」「江別市以外のまちで働いてみたいから」「給料など希望の条件にあう就職先がないから」といった理由があげられています。

【江別市での暮らし】

図表 3 4 今の仕事を選んだ理由(男女別、複数回答)



今の仕事を選んだ理由について【図表 3 4】、男性では「自分の持っている資格や能力を活かせる仕事だから」の割合が最も高く、女性では「自分にあった時間で働くことができるから」が最も高くなっています。仕事を選ぶ理由について、男性と女性で違いがあることがわかります。

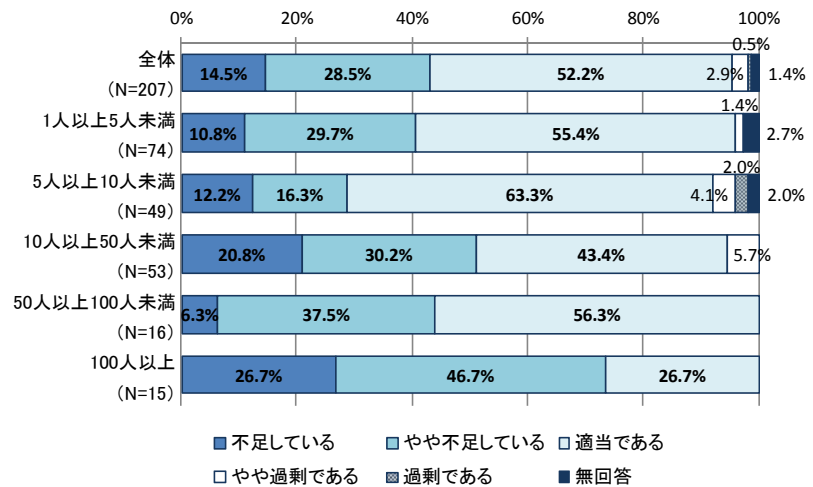
3 江別市内の事業所における人材確保に関するアンケート調査結果のポイント

【人材確保】

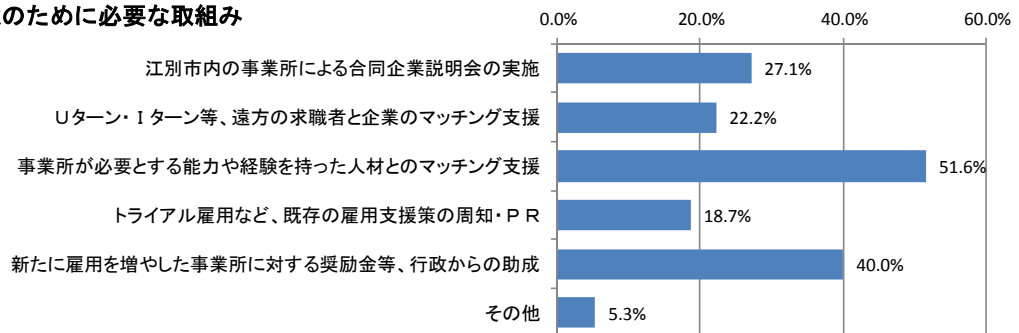
江別市の企業においては【図表 3 5】、常用労働者数が多い企業ほど人材が「不足している」「やや不足している」の割合が高い傾向が見られます。

また、採用拡大のために必要な取組みについては【図表 3 6】、「事業所が必要とする能力や経験を持った人材とのマッチング支援」が最も高くなっています。

図表 3 5 人材の過不足（常用労働者数別）

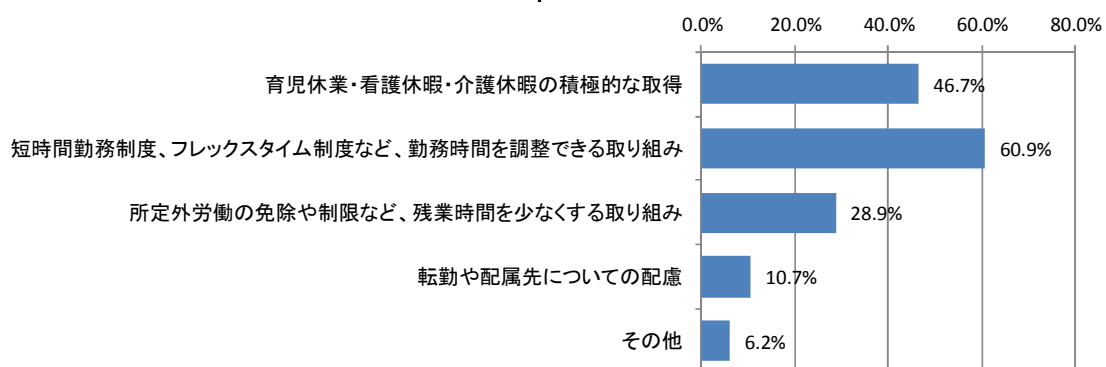


図表 3 6 採用拡大のために必要な取組み（複数回答、N=225）



【社員が継続して働き続けるための仕組みづくり】

図表 3 7 育児中の社員や家族を介護している社員が仕事を続けるために必要な取組み（複数回答、N=225）



育児中の社員や家族を介護している社員が仕事を続けるために必要な取組みについて【図表 3 7】は、「短時間勤務制度、フレックスタイム制度など、勤務時間を調整できる取組み」の割合が高くなっています。

また、常用労働者数の少ない企業では、人員確保に課題があるため、上記のような取組みの実践に課題があるとの意見がみられました。

4 大学生および子育て世代市民との意見交換会の開催結果のポイント

【大学生】

- ・多くの学生が、他の大学にはない学科や講座があることを理由に江別市の大学への入学を決めています。
- ・大学の最寄駅である「大麻駅」近辺以外はあまり立ち寄らず、地域と関わる機会は少ないとの意見がありました。
- ・学生の多くが江別市の企業を知らず、就職活動中にも企業の情報が得られなかったことがわかりました。
- ・地域活動への参加経験がある学生は、「地域との関わりを通じて江別市への愛着がわいた」「地域と何かしらのつながりを持てるきっかけがあれば、地域で暮らしたいと考える人が増える」と感じています。
- ・結婚に対する不安について、男女ともに経済・収入面での不安をあげています。また、子育てに関してアドバイスや手助けしてくれる存在がいらないことに不安を感じていることもわかりました。

【子育て世代（乳幼児保護者）】

- ・家を建てる際の土地の安さや、家賃の安さ、JR による近隣都市へのアクセスの良さ（特に札幌）、子育て施策が充実していることなどを理由に、江別市での暮らしを選択していました。
- ・江別市の子育て施策への満足度は高く、子育て支援センターが毎日利用できること、2 歳までのゴミ袋が無料であることなどが評価されています。
- ・0 歳児の一時預かりが少ない（時間が短い）ことについて改善の希望がありました。また、「ファミリーサポートセンター」など、一部の子育て支援施策の内容について、十分に情報が伝わっていない状況が見受けられました。
- ・参加したすべての保護者が「いずれは働きたい」と考えており、子どもの将来に備えて貯蓄をしたという意見があげられました。また、子育てと仕事を両立するために、保育サービスの充実や、子どもの病気等に際し、職場の理解があることが必要との意見がありました。

【子育て世代（小中学生保護者）】

- ・子育てしながら働きやすい仕組みを整えることが重要であり、保育施策により力を入れて取り組むことで、若い世代が江別市に定着し、子どもを産み育てるようになるとの意見がありました。
- ・江別市の学校に対するイメージはよく、通学路も安全で、安心して通学させられるとの評価でした。少人数学級の導入などにより、先生ひとりにかかる負担を軽減し、江別市における教育の質を上げることを検討してはどうかとの意見がありました。
- ・地域住民や企業などと交流する機会を設けたり、大学と地域の交流の機会を設けることなどを通じて、若いうちから地域への愛着を醸成することで、地域定着を促すことにつながるとの意見がありました。
- ・江別市には、農業、製造業、商業など、多様な産業や企業があり、それぞれの魅力を高めることで、仕事を求めて他の地域に転出していた大学生などが地域に残る可能性があるとの意見がありました。

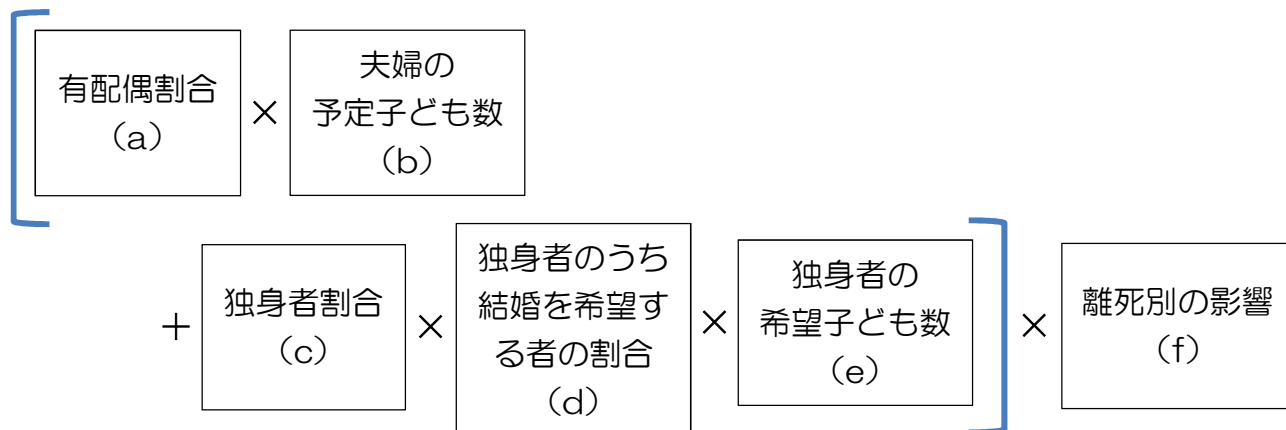
Ⅳ 人口の将来展望

【江別市の希望出生率】

国の仮定に基づき、江別市における希望出生率を算出します。算出式および、基礎数値の定義は次の通りです。

算出式に基づき算出された江別市の希望出生率は、1.68 となります。

【算出式】



【基礎数値の定義】

a	有配偶者割合	総務省統計局「国勢調査」（平成 22 年）における 20～34 歳の有配偶者の割合	29.5
b	夫婦の予定子ども数	アンケート調査（有配偶者）の夫婦の予定平均子ども数（今いる子ども＋今後持つ予定の子ども数）	1.93
c	独身者割合	1－有配偶者割合	70.5
d	独身者のうち結婚を希望する者の割合	アンケート調査（独身者）の 18～34 歳の独身者（女性）のうち、「いずれ結婚するつもり」「現時点ではわからない」と答えた者の割合	91.3
e	独身者の希望子ども数	アンケート調査（独身者）の 18～34 歳の独身者（女性）「いずれ結婚するつもり」「現時点ではわからない」と回答した人の平均子ども数	1.90
f	離死別の影響	国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」における出生中位の仮定に用いられた離死別等の影響	0.938

【将来展望】

国は「まち・ひと・しごと創生総合ビジョン」の目指すべき将来の方向として、希望出生率の実現を掲げています。これをうけ、江別市の人口推計を再計算したものが下のグラフです。推計では、2015年（平成27年）から出生率が徐々に改善し、2040年（平成52年）に希望出生率1.68を実現するものと仮定しており、2060年（平成72年）には人口置換水準である出生率2.07まで回復すると仮定しています。

このような出生率の改善が実現された場合、2040年（平成52年）時点では、図表1の推計と比較して6,253人増加し、2060年（平成72年）時点で同15,309人増加するものと見込まれます。

